

1:1 イエス・キリストの黙示。神はすぐに起こるべきことをしもべたちに示すため、これをキリストに与えられた。そしてキリストは、御使いを遣わして、これをしもべヨハネに告げられた。

1:2 ヨハネは、神のことばとイエス・キリストの証し、すなわち、自分が見たすべてのことを証した。

1:3 この預言のことばを朗読する者と、それを聞いて、そこに書かれていることを守る者たちは、幸いである。時が近づいているからである。

1:4 ヨハネから、アジアにある七つの教会へ。今おられ、昔おられ、やがて来られる方から、また、その御座の前におられる七つの御霊から、

1:5 また、確かな証人、死者の中から最初に生まれた方、地の王たちの支配者であるイエス・キリストから、恵みと平安があなたがたにあるように。私たちを愛し、その血によって私たちを罪から解き放ち、

1:6 また、ご自分の父である神のために、私たちを王国とし、祭司としてくださった方に、栄光と力が世々限りなくあるように。アーメン。

1:7 見よ、その方は雲とともに来られる。すべての目が彼を見る。彼を突き刺した者たちさえも。地のすべての部族は彼のゆえに胸をたたいて悲しむ。しかり、アーメン。

1:8 神である主、今おられ、昔おられ、やがて来られる方、全能者がこう言われる。「わたしはアルファであり、オメガである。」

示しになりました。それは地上のことではないので、見たヨハネ自身も明確な理解があったわけではないでしょうし、さらにそれを表現し、そしてそれを人間が聞いても、その現象を完全に再現することはできないと思われます。

それでも主がそのようにお示しになったのは、それが私たちの信仰の確信と力になるからです。主イエス様によって永遠の命が与えられた者にとっては、未来は希望なのだと深く心に刻みましょ。そして希望ですから、わくわくして思うことができます。世の終わりと天変地異も、それは希望なのです。

ヨハネがパトモス島にいた(9節)というのは、迫害にあってそこで終身刑を受けていたということです。そのような無希望に見えるようなときこそ、主の永遠の希望の入口です。私たちも将来が暗く感じるときこそ、主を見上げましょ。主から希望がいただけますから、それを求めましょ。

①神のみこころは？(信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか？(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか？(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか)

④この世にあって何を実践しますか？

